

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた、
科学技術・イノベーションの取組に関するタスクフォース 推進会議（第5回）

議事概要

1. 日時 : 平成28年4月27日（水）15:30～17:05
2. 場所 : 中央合同庁舎4号館4階共用第2特別会議室
3. 議事次第:
 - (1) シンポジウム開催報告
 - (2) 各プロジェクトの活動状況報告
 - (3) 大会に向けた検討状況
 - (4) 今後の予定

<冒頭あいさつ（要旨）>

内閣府大臣官房審議官（科学技術・イノベーション担当）

本年3月、タスクフォースの取組として「2020年に向けた科学技術イノベーション シンポジウム」を開催した。各プロジェクトを担当している関係府省、また東京都、大会組織委員会の御協力に深く感謝する。また、このプロジェクトには、経済界も関心を寄せており、4月15日に開催されたオリンピック・パラリンピック等経済界協議会の活動にも、この九つのプロジェクトが組み込まれており、本タスクフォースの取組と、より連携を図っていくことになっている。各プロジェクトが2020年に向けて着実に前に進むよう取り組んでいきたい。

<事務局から連絡事項>

本日の会議には、途中から島尻大臣が出席する予定。

<議題>

(1) シンポジウム開催報告

○事務局

資料1に基づき、3月10日、経団連会館において開催された「2020年に向けた科学技術イノベーション シンポジウム」の開催結果を報告。

(2) 各プロジェクトの活動状況報告

資料2-1～2-9に基づき各プロジェクトの活動状況が報告された後、構成員より以下のコメントが述べられた。

■PJ①スマートホスピタリティ

総務省から活動状況を報告。

○経済産業省

基本的に地域共有プラットフォームは民間事業者に使っていただかなければ意味が無いことから、今年度も、民間事業者の取組を支援していく予定。

○議長

研究開発の成果を社会実装につなげることが重要です。民間企業とも連携し、引き続き推進してください。また、ロボット関連でも、開発支援とともに展示会への出展や各種のイベント等で実証を進め、普及促進をお願いします。

■ P J ②感染症サーベイランス強化

厚生労働省から活動状況を報告。

○議長

感染症サーベイランス強化に向けて、引き続き、厚生労働省を中心として、関係機関と連携を進め、研究開発を推進してください。

■ P J ③社会参加アシストシステム

内閣府から活動状況を報告。

○総務省

障害者、高齢者の移動を支援するため、混雑した環境の中でも安全な自律的な移動を可能とするために、必要な高度地図データベースの更新・配信技術等について、自律型モビリティシステムの施策の中で開発実証を進めていく。

○文部科学省

スポーツ庁においては、**2020**年に向け、パラリンピック競技大会においてメダル獲得が期待される競技を対象として、最先端の科学技術を生かした競技用具やトレーニング機器、コンディショニング機器等の開発に昨年度から取り組んでおり、引き続き取り組んでいく。

○厚生労働省

1つ目の取組として、重度障害者、特に筋萎縮性側索硬化症のコミュニケーションが困難な障害者の意思伝達を可能とするための技術研究を、国立障害者リハビリテーションセンターを中心に進めている。2つ目の取組は、体温調節支援システムであり、車椅子につけることができるような機器を目指している。

○経済産業省

1つ目の取組として、**NEDO**において、**2015**年に介護現場のニーズを踏まえたロボット介護機器の開発を実施しており、今年度は安全性及び性能評価手法の開発を行うことを予定している。2つ目は、同じく**NEDO**において福祉用具実用化開発推進事業を行っており、平成**27**年度、新たに**3**事業を公募で選定し、早期の実用化に向けて開発を進めている。その中の一つとして、視覚支援用の網膜投影型眼鏡については、3月のシンポジウムで技術展示を行った。引き続き技術の発信等も行っていく。

○議長

本プロジェクトは、多くの省庁が参画して進められています。今後も、各省庁がしっかりと連携して推進してください。

■ P J ④次世代都市交通システム

内閣府から活動状況を報告。

○東京都

都心と臨海副都心を結ぶ **BRT** について、本年 4 月に事業計画を公表した。この事業計画に基づいて、停留所やバスターミナルなどの設計に取りかかることになる。今後も国や関係者と連携を図りながら事業を進めていく。

○議長

本プロジェクトでは、今後実証実験を行い実用システムへ技術導入を進めていきます。その際、東京都、大会組織委員会、関係省庁の連携と協力が欠かせません。この 4 月に技術開発に関する覚書を締結しましたが、具体的に実現するために、引き続き連携して推進してください。

■ P J ⑤水素エネルギーシステム

内閣府から活動状況を報告。

○東京都

水素エネルギーの活用というのを環境施策の一つの柱として取り組んでいるが、技術開発というところまではコミットできていないのが正直なところであり、今回のような研究をぜひ早期の実用化に向けて強力に進めていただきたい。

○議長

本プロジェクトには、オブザーバーを含めて多くの省庁が参加しています。現在、内閣府主導でデモの実証案を検討していますが、オリンピック時のお台場周辺での水素利用や大会後の水素タウンの実現については大変関心が高いところであり、引き続き関係者と連携し、推進してください。

■ P J ⑥ゲリラ豪雨・竜巻事前予測

内閣府から活動状況を報告。

○文部科学省

防災科学技術研究所において、ゲリラ豪雨の 1 時間前予測、竜巻警戒地域の市町村単位への絞り込みを可能とする仕組みなど、関係機関と連携して技術開発を行っている。4 年後のオリンピック・パラリンピックに向け、社会実装が確実になされるよう、関係府省庁と連携のもと進めていく。

○議長

2020 年のオリンピック時の東京は正に夏場であり、ゲリラ豪雨が起こり得る時期です。この研究開発成果を活用した気象サービスが実現できるよう、民間事業者も含めて関係者と連携し、推進してください。

■ P J ⑧新・臨場体験映像システム

総務省から活動状況を報告。

○議長

本プロジェクトでは、研究開発の推進とともに事業主体の具体化が重要となります。民間企業を含めて関係者間で連携し、開発成果の実用化を着実に進めてください。

■P J ⑦移動最適化システム

内閣府から活動状況を報告。

○警察庁

ビッグデータを活用して人や物の動きを感知・予測することにより、快適なおもてなしの実現と安全で安心な社会の実現に大きく寄与できるものということで、期待し、注目している。現在のシステムは、民間事業者が活用することを想定したものをそれぞれで研究開発に取り組んでいる状況なので、これらのシステムを運用していく際には、関係機関の一つとして、今後の推移を見守っていききたい。

○議長

本プロジェクトは民間事業者が中心となるプロジェクトですが、今後、国プロへの参加の検討等も考えられるますので、関係する省庁で情報交換しつつ、推進してください。

<島尻大臣あいさつ（要旨）>

2020年に向けて、我が国の科学技術がどれだけ素晴らしいかということを外に対してメッセージとして発信していくことが大変大事だろうと思っています。引き続き皆様に議論いただき、オリンピック・パラリンピックを成功に導いていただきますよう、よろしく申し上げます。

■P J ⑨ジャパンフラワープロジェクト

農林水産省から活動状況を報告。

○議長

本プロジェクトの成果が、大会、および、大会の周辺で活用されることを期待しています。東京都、大会組織委員会とも連携して進めてください。

■全体を通して

○外務省

特定のプロジェクトは担当していないが、今後、国内外のイベントや国際会議などでも情報発信ということが必要になってくると考えている。その際は、各プロジェクトの進捗状況を踏まえた上で、関係府省と連携して検討を進めたい。例えば、各プロジェクトの責任者の方が海外出張する機会に合わせた現地での講演会等、連携の可能性について、内閣府、関係省庁と相談していきたい。

○防衛省

我が国の安全、国民の安心を支えるという立場から、本タスクフォースに参加している。各プロジェクトの進捗の中で様々な課題等が出てきたときなど、協力できることがあれば、可能な範囲で対応させていただきたい。

○内閣官房オリパラ競技大会推進本部事務局

昨年 11 月に閣議決定した「オリパラ基本方針」には、大会を通じて日本の強みである技術をショーケース化し世界に発信すると明記されている。今回の九つのプロジェクトの報告では進捗感が感じられて大変心強いが、大会まであと 4 年ということもあり、開発を進め、2020 年に世界に発信できるよう願います。

■本日の議論のとりまとめについて

○事務局

本日の資料 2-1～2-9 では、それぞれの前半部分に、各プロジェクトの概要、イメージ、具体的な取組、工程表が記載されている。この概要から工程表までの部分を各プロジェクトの事業計画として取りまとめ、今後活用させていただく。

(3) 大会に向けた検討状況

○大会組織委員会から以下の 2 点を説明。

- ・大会エンブレムを 4 月 25 日に公表
- ・リオデジャネイロ大会前にアクション&レガシープラン 2016 を公表する予定

(4) 今後の予定

○事務局

今後のスケジュールを共有。

<あいさつ(要旨)>

東京都

九つのテーマについて、昨年より実現に向けて一歩進んだ発表を聞かせていただいた。我が国の科学技術の結晶ということで非常に心強く思う。東京都は、各プロジェクトの状況も踏まえ、さまざまな分野で科学技術を活用しながら開催都市として大会の準備を進めていく。引き続きよろしく願いたい。

島尻大臣

3 月に開催されたシンポジウムでは、いろいろな取組が着々と進んでいるということを感じました。これまでの皆様の努力に感謝するとともに、また、この先に向かってみんなで力を合わせて頑張っていきたいと思っていますので、引き続きよろしく願います。

以上